

令和5年度

事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人

戸板学園

目 次

1. 法人の概要

- (1) 建学の精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 学校法人の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - ① 法人設立年月日
 - ② 学校設置年月日
 - ③ 学園の沿革
 - ④ 学園の事務組織表
- (3) 設置する学校・施設の位置・・・・・・・・・・・・ 3
 - ① 本部及び校舎の位置
 - ② 施設の位置
- (4) 学校・学科の学生数の状況・・・・・・・・・・・・ 4
 - 入学定員・収容定員・現員数
 - ア) 戸板女子短期大学
 - イ) 三田国際学園中学校・高等学校
- (5) 役員（理事・監事）の概要・・・・・・・・・・・・ 4
 - ① 理事長・学長・校長等の異動
 - ② 理事の異動
 - ③ 監事の異動
 - ④ 定員数・現員数・氏名等
 - ア) 理事
 - イ) 監事
 - ⑤ 役員賠償責任保険契約の状況
- (6) 評議員の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 定員数・現員数等
- (7) 教職員の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 学校別・本務兼務員数

2. 事業の概要

- (1) 事業の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (2) 主な事業の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ① 短期大学の概況
 - ② 三田国際学園中学校・高等学校の概況
- (3) 施設設備等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - ① 防災
 - ② 施設設備

3. 財務の概要

- (1) 決算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - ① 収支計算書の概要
 - ア) 資金収支計算書
 - イ) 事業活動収支計算書
 - ② 貸借対照表の概要
- (2) 財務状況の推移(経年比較)・・・・・・・・・・ 21
 - ① 収支計算書
 - ア) 資金収支計算書
 - イ) 事業活動収支計算書
 - ② 貸借対照表
- (3) 主な財務比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- (4) 借入金の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本学の建学の精神は、時代に適応する実学の教授研究により、職業に必要な能力を育成するとともに、社会人としての人格形成と自立を目指すことにある。

(2) 学校法人の沿革

① 法人設立年月日

名 称 学校法人 戸板学園

設 立 明治 35 年 2 月 2 日

法人成立の年月日 大正 2 年 7 月 23 日 (財団法人)

学校法人大臣認可年月日 昭和 26 年 2 月 15 日 (学校法人)

② 学校設置年月日

戸板女子短期大学 開設年度 昭和 25 年度

服飾芸術科 (旧被服科)

食物栄養科 (旧生活科)

国際コミュニケーション学科 (旧英文科)

三田国際学園中学校

開設年度 昭和 22 年度

三田国際学園高等学校

開設年度 昭和 23 年度 全日制普通科

(学校法人番号) (文部科学省 132022) (東京都 10398)

③ 学園の沿革

明治 35 年 2 月 戸板関子が芝公園に戸板裁縫学校を設立

明治 37 年 8 月 戸板裁縫学校三田四国町に移転

明治 44 年 4 月 戸板裁縫学校高等科新設 (高等師範科の前身)

大正 2 年 7 月 財団法人戸板裁縫学校に組織替え

大正 5 年 4 月 戸板裁縫学校高等師範科設置 三田高等女学校創設

大正 12 年 4 月 大森町に城南女学校開設

大正 13 年 4 月 付属城南幼稚園開設

大正 15 年 4 月 大森高等女学校開設

昭和 7 年 3 月 城南女学校を城南高等家政女学校に昇格

昭和 7 年 9 月 財団法人大森学園を組織

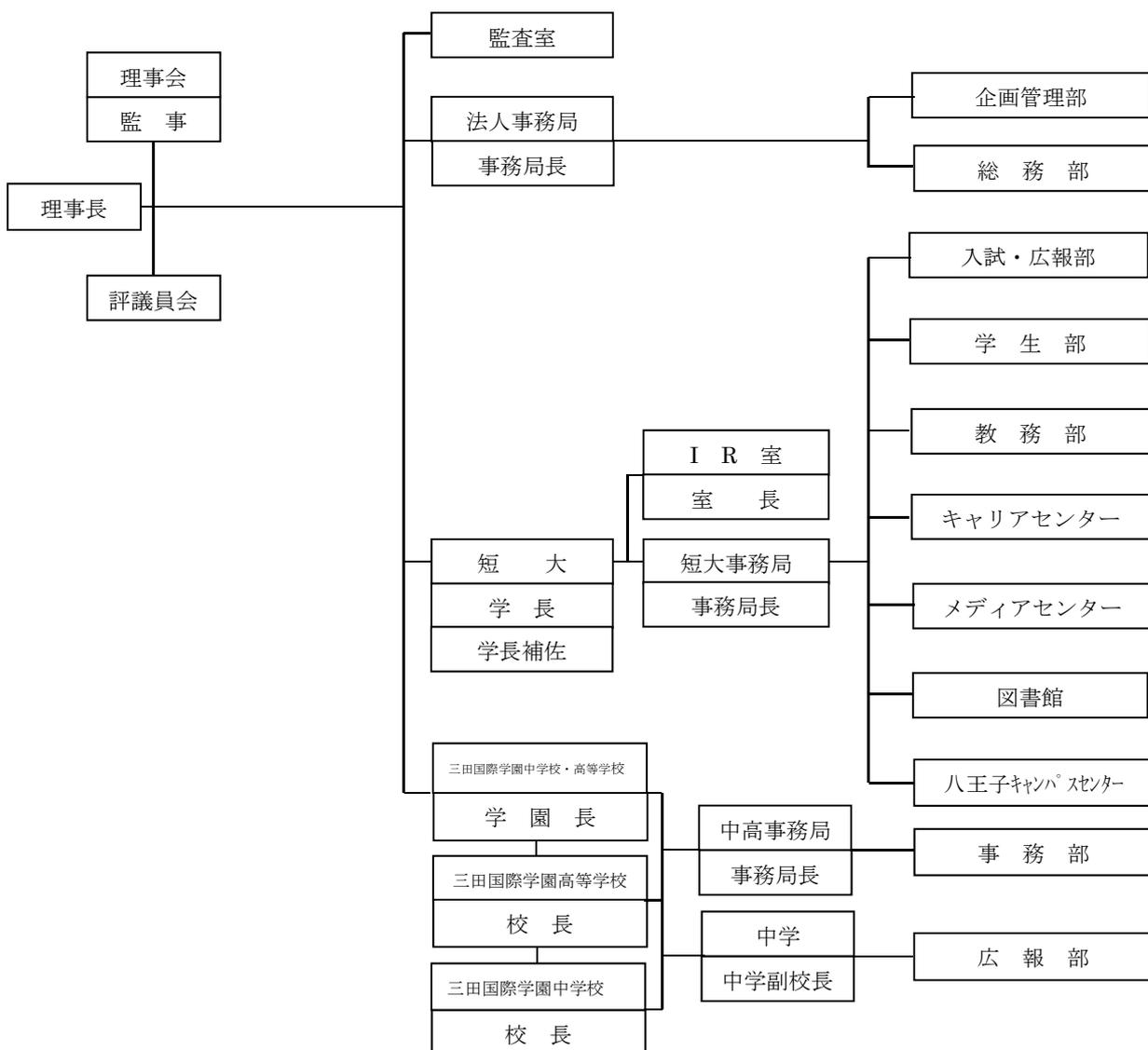
昭和 12 年 4 月 三田高等女学校を戸板高等女学校と改称

昭和 18 年 3 月 城南高等家政女学校を大森高等女学校に吸収

昭和 21 年 2 月 戸板裁縫学校を戸板女子専門学校に昇格 被服科を設置

- 昭和 21 年 4 月 戸板女子専門学校英文科を設置
- 昭和 22 年 4 月 新制度により戸板中学校開設
- 昭和 23 年 3 月 大森学園を戸板学園に吸収合併、戸板高等女学校、大森高等女学校最後の卒業式
- 昭和 23 年 4 月 戸板女子高等学校（全日制普通科）開設、戸板女子専門学校に生活科を増設
- 昭和 25 年 4 月 戸板女子短期大学（被服科、生活科、英文科）開設
- 昭和 26 年 2 月 新制度による学校法人戸板学園設立認可
- 昭和 30 年 4 月 戸板女子短期大学被服科第 2 部（夜学）を増設
- 昭和 40 年 4 月 戸板女子短期大学八王子校舎開校、生活科一部移転
- 昭和 57 年 3 月 生活科、八王子校舎へ統合
- 昭和 57 年 4 月 戸板女子短期大学被服科第 2 部を廃止
- 平成 5 年 4 月 戸板中学校、戸板女子高等学校を世田谷区用賀に移転
- 平成 7 年 10 月 戸板女子短期大学を港区芝 2 丁目新校舎に移転
- 平成 9 年 12 月 戸板女子短期大学八王子校舎に新図書館完成
- 平成 12 年 4 月 戸板女子短期大学生活科を食物栄養科に、英文科を英語科に改称
- 平成 13 年 4 月 戸板女子短期大学被服科を服飾芸術科に改称
- 平成 14 年 4 月 戸板女子短期大学英語科を国際コミュニケーション学科に改称
- 平成 14 年 11 月 学園創立 100 周年記念式典を挙行
- 平成 15 年 4 月 戸板女子短期大学専攻科食物栄養専攻認定
- 平成 16 年 4 月 八王子校舎の規模を縮小し、食物栄養科及び専攻科食物栄養専攻を三田校舎に移転
- 平成 20 年 3 月 戸板女子短期大学専攻科食物栄養専攻を廃止
- 平成 27 年 4 月 中学校、高等学校を共学化し、校名を戸板中学校、戸板女子高等学校から三田国際学園中学校、三田国際学園高等学校へ変更

④ 学園の事務組織表（令和6年3月31日現在）



(3) 設置する学校・施設の位置

① 本部及び校舎の位置

法人所在地	東京都港区芝2丁目21番17号
戸板女子短期大学	
・三田キャンパス	東京都港区芝2丁目21番17号
・八王子キャンパス	東京都八王子市犬目町139
三田国際学園中学校	東京都世田谷区用賀2丁目16番1号
三田国際学園高等学校	東京都世田谷区用賀2丁目16番1号

② 施設の位置

小諸高峰山荘	長野県小諸市大字菱平下小姓
軽井沢セミナーハウス	長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字芹ヶ沢

(4) 学校・学科の学生数の状況

入学定員・収容定員・現員数（令和5年5月1日現在）

ア) 戸板女子短期大学

(単位：人)

学 科	入学定員	収容定員	学生数
服飾芸術科	150	300	383
食物栄養科	150	300	293
国際コミュニケーション学科	100	200	238
合計	400	800	914

イ) 三田国際学園中学校・高等学校

(単位：人)

学 校 名	入学定員	収容定員	生徒数
三田国際学園中学校	160	480	715
三田国際学園高等学校	188	564	627
合計	348	1,044	1,342

(5) 役員（理事・監事）の概要

① 理事長・学長・校長等の異動

無し

② 理事の異動

令和5年7月 橋本綱夫理事就任

③ 監事の異動

令和5年6月 森萩裕子監事就任

④ 定員数・現員数・氏名等（令和6年3月31日現在）

ア) 理事

選任区分	区分	氏 名	定員	現員	常勤非常勤の別	就任年月日
寄附行為第6条第1項 第1号(学長・校長)	理事長 (高校校長)	湯尾健児	3名	3名	常勤	平成27年4月理事就任
	学長	白川はるひ			常勤	令和4年4月理事就任
	中学校長	原田啓志			常勤	平成30年4月理事就任
寄附行為第6条第1項 第2号(評議員のうち から評議員会が選任)	理事	今井誠	1名	1名	常勤	令和3年4月理事就任
寄附行為第6条第1項 第3号(理事会が選 任)	理事	大橋清貫	2~4名	4名	常勤	平成25年4月理事就任
	理事	金井裕太			常勤	令和3年4月理事就任
	理事(学外)	柴田尚史			非常勤	令和2年7月理事就任
	理事(学外)	橋本綱夫			非常勤	令和5年7月理事就任
合計			5~8名	8名		

イ) 監事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤非常勤の別	就任年月日
寄附行為 第7条 (理事会が選出した候補者から理事長が選任)	監事 監事	重吉博右	2名	2名	非常勤	令和3年4月監事就任
		森菽裕子			非常勤	令和5年6月監事就任

⑤ 役員賠償責任保険契約の状況

- ・ 契約会社：三井住友海上火災保険株式会社
- ・ 契約者：日本私立短期大学協会（団体保険制度）
- ・ 記名法人：学校法人戸板学園
- ・ 被保険者：学校法人戸板学園役員
- ・ 対象となる損害：損害賠償金、争訟費用、各種費用保険金
- ・ 支払限度額：1億円
- ・ 保険期間：1年間
- ・ 保険契約開始日：令和5年7月1日

(6) 評議員の概要

定員数・現員数等（令和6年3月31日現在）

選任区分	氏名	定員	現員	就任年月日
寄附行為 第22条第1項第1号 (法人の教職員)	井上近子	3名	3名	令和4年4月評議員就任
	東條佐和子			令和3年4月評議員就任
	松井恵美子			令和5年4月評議員就任
寄附行為 第22条第1項第2号 (卒業生)	小泉きよみ	3名	3名	平成24年4月評議員就任
	浅川初枝			平成26年4月評議員就任
	市川由布子			令和3年4月評議員就任
寄附行為 第22条第1項第3号 (理事会において選任した者)	湯尾健児	11名	11名	平成27年4月評議員就任
	大橋清貫			平成25年4月評議員就任
	原田啓志			平成29年4月評議員就任
	長江修			令和2年1月評議員就任
	柴田尚史			令和3年4月評議員就任
	今井誠			令和3年4月評議員就任
	中澤亮			令和3年4月評議員就任
	西岡健自			令和3年4月評議員就任
	金井裕太			令和3年4月評議員就任
	白川はるひ			令和3年4月評議員就任
	上石暁礼			令和3年4月評議員就任
合計		17名	17名	

(7) 教職員の概要

学校別・本務兼務員数（令和5年5月1日現在）

（単位：人）

区 分	本務教員	兼務教員	職員	合 計
短期大学	31	32	35	98
中学・高校	90	20	17	127
法人			10	10
合計	121	52	62	235

※ 臨時・派遣・校医含まず。

2. 事業の概要

(1) 事業の概況

戸板学園は創立 122 年を迎えた。近年の社会経済の変動に合わせ数年前から短期大学、中学校・高等学校の大幅な改革を行い、その結果改革が受験生に評価され入学希望の学生・生徒が大幅に増加した。

短期大学では、専門教育、教養教育という正課教育と、産官学連携、学園祭（夏・秋・春）、学生会、サークル、ボランティアなどの正課外教育を通して、自ら主体的に活動し、実社会とつながりながら成長できる場を多数用意しているため、学生は自らの成長を実感して充実した学生生活を送ることができている。こうした在学生在が正課教育と正課外教育を通して成長した姿をオープンキャンパスで表現することで、来校した高校生は在学生在に憧れを持つようになり、自分自身も在在学生のように充実した2年間を送りたいという想いの入学者が増えている。そのため、短期大学業界の志願状況は厳しいが、本学は10年連続で定員を超過している。

中学校・高等学校では平成27年度に学校名を変更し共学校化に踏み切り、教育方針として「21世紀のグローバル社会で活躍できる人材の育成」を掲げ、達成のためのカリキュラム、シラバスの充実に努めてきている。令和4年度より中高共に新しいコースを導入し、教育改革の状況を学校説明会等で保護者、生徒に発信し、多くの共感を得て、中学受験市場において首都圏有数の注目受験校となっており、受験生のレベルも年々向上し、受験難関校となっている。

法人では、短期大学、中学校・高等学校の改革・改善を支えるべく、増加した学生・生徒の収容力の拡張、教育環境の整備に注力している。両校舎とも築30年弱となり、設備面の要改修箇所が目立つため、今後も計画的に工事を進めていく。

中高、短大ともに運営は軌道に乗り、生徒・学生数増による収入増加のため、近年の収支バランスは取れてきているが、短期大学の入学者は前年度より多かったものの（令和4年度467名、令和5年度470名）、志願者は減少となった。少子化（厚生労働省発表令和5年出生数758,631人）に加え、高等教育無償化、大学入試改革、大学入学定員厳格化の緩和等の影響から、学校間競争はさらに激しさを増し、生徒・学生募集が今後さらに厳しい状況になっていくことを認識しなければならない。この課題に対

しては、他校との明確な差異化のための間断なき改革・投資が必要である。

(2) 主な事業の進捗状況

① 戸板女子短期大学の概況

■定員確保

広報活動の強化（WEB 広告、高等学校との関係性強化）（入試・広報部）

令和5年度生の入学手続き者は470名であり、定員400名に対し117%の入学者を確保している。

○令和5年度学生募集結果（令和5年5月1日：現在）

	募集人員	志願者	受験者	合格者	合格倍率	入学者
服飾芸術科	150	213	213	197	1.10	194
国際コミュニケーション学科	100	134	133	133	1.06	129
食物栄養科	150	152	149	149	1.03	147
合計	400	499	495	470	1.02	470

服飾芸術科と国際コミュニケーション学科は定員を上回ったが、食物栄養科は定員に対して未達となった。競合の四年制大学が、今後は学校型推薦（指定校）に力を入れてくる中で、本学としての学びの差別化、強みであるオープンキャンパスへの来校促進と営業強化を行い、来年度の3学科ともに定員確保を目指す。

■中退防止

学生生活満足度向上及び中退防止を目的に、令和4年に引き続き総合教養センター教員及び職員がクラス担任を持ち、きめ細やかなサポートを行った。（キャンパスアドバイザー制度）。1年の後期からは、各学科のアドバイザーが引継ぎを行い、切れ目なく学生サポートを行っている。前期の面談開始時期（5月中旬）を前倒（4月下旬）し、早期に学修状態を把握することで学科教員や保健室、カウンセラーに繋げることができた。1年次に細やかな学生対応ができる体制とした結果、1年次の退学率は、前年度より0.9ポイント下がった。またアンケートより、クラス担任への満足度も高い傾向が見られた。令和6年度はさらに改善を重ね、学生の学校生活満足度を高め、中退防止に繋げていく。

■他校との差異化戦略

1、カリキュラム改革（教務部）

履修モデルの見直しに伴いカリキュラムの変更を行った。

服飾芸術科では、デザイン系を「デザインクリエイション（デジタル）」、「デザインクリエイション（ファッション）」とに区分し、イラストレーター、フォトショップ等を活用したデジタルデザイン指向の学生と、従来型のファッションデザイン指向の学生をそれぞれ受け

入れられるカリキュラムとした。また、国際コミュニケーション学科においては、「ホテル・ツーリズム」を「ホテル・ブライダル・ツーリズム」とし、ホテル関係に志望はしつつもブライダル分野に就職したい学生も取り込むことができるようカリキュラム編成を行った。

2、海外大学編入・留学支援センター

マーセッド・カレッジ（米国）に2名、オカナガン・カレッジ（加国）に3名、合計5名のターム留学学生を輩出した。海外大学編入・留学支援センターは2名の専任教員と1名の非常勤講師が学生対応し、これまで短期留学（2～3週間）プログラムのみであった留学の幅が大きく広がった。また、9名1週間という短期であったが韓国語留学も初めて実施でき、次年度のさらなる展開についての打ち合わせも進めている。

3、産学連携・起業支援センター

【産官学連携・起業支援の強化】

今年度は試運転期間として以下の産学連携・起業支援を行い、4階の「産学連携・起業支援センター」の学生認知度が高まったと考えている。具体的活動は以下のとおりである。

- ・回転ずしチェーン「カップ寿司」デザートメニュー開発
全店にて展開（4月19日～5月9日）「キミをトリコにする夢のパンケーキ」5万食を販売
- ・once elf(ファッションECサイト運営)とオリジナルブランドの開発、ECサイトにて販売
「アパレルブランド起業プロジェクト」服飾芸術科15名の学生が3ブランドを立ち上げ
- ・群馬県スーパー「パワーセンターうおかつ」の群馬名産弁当のメニュー開発
「群馬のトリコ！戸板の風にのせて弁当」100食完売
- ・ウェディング会社を学生6名で設立「ウェディングカンパニー」、挙式や学内外でウェディングフォト撮影を商品化。挙式を学内で実施
- ・外食チェーン「東京豆腐」季節の新商品メニューを開発
「ゴロゴロかぼちゃのチーズフォンデュ風スンドゥブ」の販売
- ・10代のファッション&エンタテインメントイベント「超十代」のイベント運営に参加
- ・ホテルザセレスティン東京芝とホテルブライダルイベントの企画運営を実施
- ・日の丸自動車興業株式会社とインバウンド向け企画を実施
学園祭に日本の文化体験ブース（茶道・書道・屋台体験など）をつくり、観光バスを利用する訪日観光客の思い出づくりに寄与した。

4、早期就職レベル向上のため、キャリア系授業の体系化

早期就職レベル向上のため、1年生の夏季において短期インターンシップを実施した。また、就活に向けたキャリアセンターの取り組みをキャリア関係授業の中に今まで以上に入れ込んだ。これにより、集合教育の中でいくつもの就活支援プログラムを実施することができたため、これまで個別でおこなってきた学生へのキャリア支援が大幅に効率化し、個別対応が必要な学生への相談がより効果的にできるようになった。

2023年8月～12月を中心に約55社の企業で実施（主な実施企業）

- ・（観光）日の丸自動車興業 社長の秘書業務体験
- ・（テーマパーク）キッザニア 子どものお仕事体験サポート
- ・（ウエディング）明治記念館 ドレスコーディネーターのお仕事体験
- ・（スポーツビジネス）川崎フロンターレ スポーツビジネスを学ぶ
～特別講義とスタジアムの裏側見学
- ・（外食）ワンダーテーブル 鍋ぞう 「働く女性に刺さる冬の〇〇鍋」開発
- ・（スポーツ栄養士）シダックス×静岡ブルーレヴズ スポーツ栄養士の仕事見学
- ・（ディーラー）宮園輸入車販売 ベンツを扱う輸入車ディーラーの見学&仕事体験
- ・（ウエディング）レック 模擬挙式やカメラマン体験をしてみよう
- ・（メイク）イセタンミラー ブランドミックスメイク体験
- ・（IT）新日本テクトス 必須スキルのプログラミングの基礎を学ぶ、
シューティングゲーム作成

■就職支援の充実

2024 卒内定状況については、99.7%である。

以下、主たる施策・取り組みを記す。

「2025 卒対象 業界フェア（学内企業説明会）」

2/13 ウエディング・ホテル・観光・テーマパーク

2/16 ファッション・ビューティ/ 栄養士・食品・フードビジネス/ エアライン

3/6 ビジネス・海外就職フェアを開催した。

- ・参加学生 延べ251名参加
- ・参加企業（合計65社参加）

八芳園、遠藤波津子グループ、ヒルトン東京お台場、ホテルオークラ東京ベイ、キッザニア、日清医療食品、DEAN&DELUCA、オルビス、DHC、湘南美容クリニック、ベルルッティジャパン、AIRDO、JAL スカイ、日本通運、AMAZON、ルミネ 他

「就活必勝塾」

就活の春季講座として、レベル別に初級、中級、上級講座や筆記試験対策など実施。

春休み期間 全13日開催 参加学生数 延べ317名参加

「就職ガイドブック制作」

就職活動のスケジュールおよび寄付金にご協力いただいた企業情報を掲載した就職ガイドブックを制作し1年生全員に配布。就活必勝塾など、就活講座でテキストとして使用。

■FD/SD研修報告

1、授業満足度向上プロジェクトとして、FD研修の中でPBLに取り組んだ。また、教員の指導力レベルアップに向けて学科KPIを設定し、就職へつながる指導力のレベルアップを図った。

日時	研修名	テーマ	講演者
4月27日	第1回FD研修	PBLへの取り組み	大橋本部長
5月20日	第2回FD研修	授業満足度向上PJ研修	㈱チームD
6月22日	第1回SD・FD研修	PROGテスト解説会	㈱リアセック
7月1日	第3回FD研修	学科KPI	㈱チームD
8月31日	第4回FD研修	中等教育課程改訂に伴う 高等学校の取り組み	佼成学園女子中学校高等学校 学園統括進路指導部長 西村準吉講師
10月31日	第1回SD研修	自己認識力向上による組織力 向上ワークショップ	人事組織マネジメント 山形方人講師
2月22日	第2回SD・FD研修	PROGテスト解説会	㈱リアセック
3月12日	令和5年度研究報告会（FD研修）	令和5年度研究報告会	担当教員
3月13日	管理職研修1	「選ばれる学校」になること	㈱チームD
3月29日	管理職研修2	「選ばれる学校」になること	㈱チームD
8月～1月	SD・FD研修	オンデマンド研修	㈱ビズアップ

■校内環境の整備

- ・校内老朽化の改修（校内緑化・カフェテリア設備等）

校内緑化の一環として、ROOF TOP LABで生育したパパイヤ・コーヒーの苗を冬場は、屋内に移動し、観葉植物として運用した。なお、3月末レンタル観葉植物をエントランス、3階等に配置し、在学生・教職員への精神的ゆとりの配慮と緑の多い短大としてのPR効果を狙うことができた。

施設関連は早期対応の必要な修理に留めたが、食品を扱う学科もあるため老朽化したブラインドの清掃、古いカーテン撤去と新規設置により衛生的な教育環境を目指した。

■その他

- ・企業寄付への取り組み

2023度より、企業への寄付依頼をスタート。

初年度の結果は、25社465万（目標寄付金額300万円）

2024年度の企業寄付は700万が目標。

【認証評価機関の評価結果】

直近の評価結果である、一般財団法人短期大学基準協会による機関別評価結果（平成30年3月9日付）では、「向上・充実のための課題」として、基準Ⅱ教育課程と学生支援・4・[テーマA教育課程]に関する事項をいただいたが、これについてはその後の運営会議、関係委員会等で協議し改善している。

「早急に改善を要すると判断される事項」はない。

② 三田国際学園中学校・高等学校の概況

令和5年度の生徒在籍者数 1,342名（令和5年5月1日時点）

中学 715名

1年生 220名：ISC※1 146名・IC※2 74名

2年生 251名：ISC 125名・IC 85名・MST※3 41名

3年生 244名：本科 78名・インターナショナル 127名・MST 39名

高校 627名

1年生 210名：ISC 141名・IC 35名・MSTC※4 34名

2年生 231名：ISC 176名・IC 23名・MSTC 32名

3年生 186名：本科 70名・ICS※5 59名・ICA※6 23名・MSTC 34名

※1 インターナショナルサイエンスクラス

※2 インターナショナルクラス

※3 メディカルサイエンステクノロジー

※4 メディカルサイエンステクノロジーコース

※5 インターナショナルコーススタンダード

※6 インターナショナルコースアドバンスド

➤ 全校での取組

校名を三田国際学園としての9年目となり、今年度も「発想の自由人」の育成をビジョンとして三田国際学園教育を推進した。中高とも新コースの2年目となり本物のグローバル教育、サイエンス教育を展開すると共に、PBL型授業をより高度に展開した。4期生の高校卒業年度であり、それぞれが自らの進路実現を達成し、国内難関大・海外大の合格数はこれまで以上に増加し非常に高い卒業満足度を得ることが出来た。また、広大連携として本校の教育と相性の良い大学としてICU（国際基督教大学）との提携を決定し交流を開始した。

【全体方針】

- ・「発想の自由人」の育成
- ・12のコンピテンシー（共創・創造性・革新性・探究心・コミュニケーション・責任感・率先・リーダーシップ・問題解決能力・社会参画・異文化理解・生産性）の定着
- ・「THINK&ACT」「INTERNATIONAL」「SCIENCE」の3本の柱による教育の明確化
- ・相互通行型授業の推進

➤ 学習指導

ア 「授業」の深化

- ・PBLにより、論理的思考力を育成
- ・主体的な学びの姿勢を育成
- ・合教科型授業により発想力を育てる

イ 教員研修

- ・春期教員研修 4月
学園長講話 授業研修 進路指導研究
- ・夏期教員研修 8月
学園長講話 授業研修 選択式ワークショップ
- ・冬期教員研修 1月
学園長講話 授業研修 海外大進学研究

ウ 研修旅行

- 高校2年 修学旅行実施 (ISC: ハワイ・宮崎, MST: シンガポール)
- 中学3年 SLA(Social Link Action)実施 (福井県)
- 中学2年 SLT(Social Link Trigger)実施 (神奈川県・静岡県)

➤ 進路指導、キャリア教育

広義にキャリアを捉え、生徒自身が「自ら進む道を選択する」ように、目標設定をキャリア教育が担い、達成に向けて、個々の戦略・計画立案・計画実行を進路指導が担当し、それぞれが希望の進路を実現するように展開した。

ア オリエンテーション合宿 (中学1年) 実施

イ CTC (高校1年) 実施

卒業生、保護者との「キャリアワークショップ」「アントレプレナーシップ」

ウ MITA International Festival 及びプレゼン DAY におけるプレゼンテーション

- ・プレゼンテーションの実施

中学生 キャリアプレゼンテーション

中学3年生本科・MST: 「基礎ゼミナール発表」

高校2年生 MSTC 「基礎研究発表」

高校1年生・2年生・中学生選抜者 「英語レシテーション」

中学生選抜者・高校生選抜者 「英語スピーチ」

エ キャリア教育

「キャリア教育講演会」、「オンライン職業人講話 (中2)」「協力保護者企業への訪問 (中2)」「法政大学キャリアデザイン学部の学生との交流会」の実施

オ 大学進学指導

三田国際学園の中学4期生の卒業年度。主な合格数は以下の通り。

【国内】

<国公立大学>22名 (既卒1名)

東京2、一橋、東京工業、筑波4、大阪、東北、東京外語、秋田、お茶の水女子、横浜国立2、千葉、信州、東京都立2、札幌医科、名古屋市立、宮崎 (1)

<早慶上理+ICU> 125名 (7)

早稲田 42 (1)、慶應 37 (1)、上智 23 (1)、東京理科 17 (4)、国際基督教 6
<GMARCH> 157 名

学習院 3、明治 34 (7)、青山学院 34 (3)、立教 47 (1)、中央 19、法政 20 (2)
<関関同立・APU> 17 名

立命館 1、APU (立命館アジア太平洋) 5、同志社 4、関西学院 7 (1)
<医学部医学科> 8 名 (1)

筑波、札幌医科、名古屋市立、東京慈恵会医科、昭和、杏林、東海 (1)、東京医科

- ・東京大学 理科一類に 2 名合格
- ・筑波 (推薦)、札幌医科、名古屋市立という国公立の医学部および東京慈恵会医科という難関医学部に合格者
- ・国公立、早慶上理 ICU、GMARCH いずれも過去最高の合格数

【海外】 101 名 (2024 年 5 月 12 日現在)

- ・Times Higher Education (THE) Top100 以内の大学 (東京大学は 29 位)

Princeton University		THE 6 位
University of California, Berkley		9 位
University of Toronto	4	21 位
University of Washington		25 位
New York University		27 位
University of Edinburgh		30 位
University of Hong Kong		35 位
University of Melbourne		37 位
King's College London		38 位
University of British Columbia	3	41 位
University of Illinois Urbana-Champaign		42 位
Monash University		54 位
University of Sidney		60 位
University of Wisconsin-Madison	2	63 位
Australian National University	2	67 位
Washington University in St. Louis		68 位
University of Queensland	3	70 位
University of Southern California	2	74 位
Leiden University		77 位
Boston University	2	78 位
University of Minnesota, Twin Cities		85 位
University of California, Irvine	3	92 位

- ・今年度 104 の合格者数は昨年 51 の 2 倍以上

- ・3年連続で柳井財団の奨学金が認められる。

➤ 生徒指導

学校方針を具現化するため、生徒の成長に効果的な行事を実施。
多様性を受け容れ、共生と帰属意識の高い学校生活を送れるようにしていく。
部活動においても、学園方針を具体的に実現していく活動であるようにする。

ア 行事

- ・Sports Festival 中学・高校とも2023年6月に通常実施。
- ・MITA International Festival
2023年10月に実施、テーマは「Passion」
生徒が運営の中心
学年企画、プレゼンテーション、研究発表、部活動の成果発表
PTA、後援会、同窓会が食品販売、グッズ販売、休憩場所の運営、学校警備などで支援。
来場者 10月28日(土) 3921名 10月29日(日) 4335名
- ・「MIF 歌謡祭」2023年12月に実施。音楽に関する生徒の発表をオンラインで配信。
- ・音楽会 2023年2月に午前中は高校、午後は中学が実施。

イ 部活動

- ・12のコンピテンシーの定着という目的で、各部とも到達目標を設定し活動。

ウ 生徒指導

- ・「Hyper-QU(学校満足度測定)」を5月と11月に実施し、学年ごとに分析会を開催。
- ・スクールカウンセラー常勤1名に加え、臨時職員1名を置く。
- ・性教育講演会、SNS講演会を開催。

➤ 教務

三田国際学園の運営に関する以下の業務を行い教育活動を支えた。

ア 新年度準備

時間割作成 座席表準備 教室備品 在籍数一覧 名表作成 非常勤講師用準備
教室配置 生徒家庭調査書準備 など

イ 定期試験関連

時間割作成 試験監督表作成 別室受験者準備 定期試験運営

ウ 成績関連

成績会議資料 指導要録の点検

エ 実施要項の作成

入学式 保護者会 転編入試験 国際生入試 2月中学一般入試 卒業式

オ その他

各種名簿作成 証明写真・集合写真関連 文房具準備など

カ 新校務システム「ツムギノ」の導入

➤ 広報

三田国際学園の本物感と魅力を伝える広報活動。

ア 学園の教育の柱である「THINK&ACT」「INTERNATIONAL」「SCIENCE」を市場に訴求

イ 育成する生徒像の共有

- ・21世紀のグローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。
- ・「Contribution（貢献）」という学びの姿勢の共有。
- ・「数学の時代」と捉え、サイエンスを重視している学校であることを訴求。
- ・国際学園の名の通り、国際感覚・異文化理解が見につく環境を訴求。

ウ 受験マーケットの価値観の変化の共有

- ・受験生を持つ現在の親世代が求める学校教育について共有
- ・偏差値帯の上昇の中で本校の教育の魅力をどう訴求するかを共有

エ メディカルサイエンステクノロジーコース（MSTC）の実績を強調

- ・高校 MSTC の生徒の研究成果を広く広報し、本校のサイエンス教育の質の高さを強調。

オ 三田国際学園ホームページ

- ・更新頻度をできる限り上げ、動画、写真も駆使し、学園の魅力を発信。

カ 入試問題

- ・本校のアドミッションポリシーを体現した入試問題であることを説明会で発信。

キ 帰国生入試の条件厳格化への対応

優遇制度の導入で、条件を満たす受験者数増加。

ク 志願者状況・入学者状況

- ・中学入試総志願者数 2717名、総受験者数 1866名
- ・実受験者数が昨年を上回った。
- ・合格者得点も前年よりも高くなり、受験生の質がさらに上昇。

➤ インターナショナル

「Provide a global-standard academic program in English」

英語による世界基準のアカデミックプログラムを提供

「Provide international experiences, abroad and domestically, for students and faculty」

生徒・教員に国内外での異文化体験/海外体験の機会を提供

「Promote cultural understanding and integration within our international community」

本校のインターナショナル環境のもと異文化理解やインクルーシブな仕組みを促進という目的のもとに以下の取り組みを計画、実行した。

ア 留学

(1) 高2 ICA オーストラリア修学旅行 2023年12月

(2) 高1 アメリカ長期留学 高1 カナダ長期留学 高1 イギリス長期留学

- (3) 中3 オーストラリア ターム留学
- イ 海外大学進学指導
 - (1) 個別カウンセリングの実施
 - (2) PSAT・TOEFL ITP の実施 (Advanced 生徒)
 - (3) 英語能力試験 (TOEFL, SAT など) 対策授業・講座
 - (4) International Teacher によるエッセイ等の指導
 - (5) 様々な課外活動の紹介
 - (6) 海外大学との提携
- ウ International Class
 - Academy 英語・数学・理科・社会において International Teacher と連携し、プログラムの充実化を図る。
 - Immersion 英語に加えて、数学・理科・社会において段階的にオールイングリッシュで授業を展開する。
- エ レシテーションコンテスト・スピーチコンテストの運営
- オ Dual Diploma Program
 - 令和3年度から正式にプログラムを導入。今年度初の卒業生を出した。
 - ICA 23名中15名が海外大学に合格
- カ その他
 - (1) 国際生入学前ガイダンス懇親会
 - (2) 教職員異文化理解
 - (3) 海外大学進学セミナー等イベント運営

➤ MST

2023年度は高校1,2,3学年でMSTコース、中学2,3学年でMSTクラスが展開した。研究の素養を学び、基礎研究を行い、自らのテーマで研究し、発表していくことを目的としている。

ア 2023年度の学内の取り組み

- ・ 中学4期生（高校3年生）の進路指導、特に総合型選抜、推薦入試に向けての課題レポートなどの指導
- ・ 高校MSTの研究活動の充実

イ 対外的な活動

- ・ JSEC2023 第21回高校生・高専生科学技術チャレンジ
- ・ つくば Science Edge 2024
- ・ 千葉大学 高校生理科研究発表会
- ・ サイエンスキャッスル関東大会
- ・ 高校生国際シンポジウム
- ・ 東京大学 Global Science Campus

ウ 対外活動での主な生徒の活躍

- ・ JSEC2023 第 21 回高校生・高専生科学技術チャレンジ 日本ガイシ賞（高 2）
 - ・ 当該生徒が日本代表に選抜
- ・ サイエンスキャッスル関東大会 口頭発表部門最優秀賞（高 2）
- ・ 水中ロボットコンベンション ジュニア部門優勝（高 1）
- ・ 高校生国際シンポジウム 口頭発表採択

(3) 施設設備等の状況

① 防災

災害時に備えて学園全体として 3 日分の飲料水、食料品、防寒アルミシート等を備蓄している他、防災用トイレを整備している。短大では平成 24 年(2013 年)に港区と「帰宅困難者の受け入れ等に関する協力協定」の締結により、帰宅困難者に対しても備蓄する飲料水や食料の協力があるため、備蓄は欠かせないものとなっている。

- ・ 短大では、避難経路図を各フロア消火栓付近に表示している。
- ・ 中高では、生徒個人用防災備蓄品を入学時に購入している。
- ・ 短大・中高とも、施設面での安心・安全面をより強化するために、火災、地震、津波等の災害を想定した教職員・学生・生徒による避難訓練を毎年行っている。

② 施設設備

主な整備内容

(戸板女子短期大学三田校舎)

- ・ 10F11F テラス防水補修・6F 屋上庭園緑化整備・6F サンルーム窓サッシ補修
- ・ 2F ヒートポンプエアコン修理・1F 避難扉修理・不良照明器具 LED 化
- ・ 消防設備不具合修理

(三田国際学園中学校・高等学校用賀校舎)

本館棟

- ・ 屋根、外壁改修・東側階段、西側階段改修・1F3F 廊下改修・2F 窓サッシ改修
- ・ 2F ラボ 1 エアコン交換・中学職員室空調交換・図書館ソファ交換
- ・ 特別応接室床張替え

教室棟

- ・ 2F3F 女子トイレ改修・2F 排気ファン交換・教室扉、柱補修

ホール棟

- ・ 空調機電磁開閉器交換・壁補修・照明器具 LED 化・フロアシート巻取器交換
- 学校周辺樹木剪定

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

平成 24 年度に企画した学園財政の収支均衡化を目標とした経営改善計画（中期計画）の施策の実行により、平成 25 年度から入学者が着実に増加してきた。学園全体で平成 27 年度より入学者数が入学定員数を充足したことにより、学生生徒納付金収入が増加に転じた。

令和 5 年度も引き続き入学者数が定員数を充足したので、学生生徒納付金収入も安定した収入が得られている。令和 6 年度の入学者は以下のとおり。

※令和 6 年度入学者数（令和 6 年 4 月 1 日現在）

	短期大学	中学校	高等学校
入学者数	418	264	241

① 収支計算書の概要

学校法人会計と企業会計の違いについて

学校法人とは、私立学校法に基づき文部科学省をはじめとする所轄庁の認可を受けて設立される極めて公共性の高い法人である。学校法人は、学校法人会計基準に基づき会計処理され、財務諸表等を作成し、公共的な教育環境を支える財政を明らかにするために財務諸表の公開が義務付けられている。また、国や公共団体より補助金を受けるためには財務諸表の提出義務もある。学校法人会計と企業会計の違いはその会計の目的が異なる。企業は一定期間の収益と費用から当期利益を算定し財政的安定を高めること及び財政状態を利害関係者に開示するところにある。一方、学校法人は、その収入の多くが学生生徒からの納付金や税金である補助金を交付されている極めて公共性の高い法人であるので、企業のように利益を獲得することによる投資家や債権者の保護を目的としているのではなく、一定期間の事業活動収入と事業活動支出を算定し当年度の収支差額を求めることによって、その均衡状態を明らかにし、学校経営における教育研究活動の健全性を財政面から測定し開示するところにある。活動目的の違いは会計にも反映されており、学校法人会計では教育研究活動の永続性を図るため資金収支の顛末や事業活動収支の均衡状態及び財政状況を測定することを目的としているのに対し、企業会計は損益計算書や配当利益の計算に重点が置かれている。このように学校法人は極めて公共性の高い法人であるので、私立学校振興助成法に基づき学校法人会計基準に則り会計処理をし、公認会計士の監査を受けることになっている。

ア) 資金収支計算書

平成 27 年度より学校法人会計基準の一部が改正された。資金収支の計算書様式はほぼ同一の様式によるが、従来の消費収支計算書は事業活動収支計算書と大きく変わることになり、平成 27 年度の予算書より適用している。

学校会計における資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュフロー計算書に相当するものと言われているが、今回の改正により決算において活動区分資金収支計算書の作成が義務づけられることによって、より一層企業会計のキャッシュフロー計算

書に近いものを作成することになった。

資金収支計算書は、当該会計年度における諸活動のすべての収支内容と、会計年度の支払資金の収支の顛末を明らかにするための計算書類である。資金収支の特徴は、収入と支出をすべて現金預金で行われたものとみなして表示し、計算書類の末尾に実際は現金預金の収支ではない前期末前受金、期末未払金など資金収支調整勘定を差し引き調整して、期末現金預金残高を翌年度繰越支払資金として表示するところにある。

資 金 収 入 の 部	
科 目	科 目 説 明
学生生徒等納付金収入	学費、授業料、入学金、施設設備費等、学生生徒等が納入するもの
手数料収入	主に入学検定料や試験料
寄付金収入	個人や企業、団体からの金銭による寄付金
補助金収入	教育研究に対する国や地方公共団体からの助成金
資産売却収入	学校法人が保有する資産の売却、有価証券の処分において得る収入
付随事業・収益事業収入	企業等外部機関からの受託研究資金、公開講座の受講料
受取利息・配当金収入	預金、債券等を運用して得た利息、配当金
雑収入	主に退職金団体からの交付金
借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団、金融機関からの借入金
前受金収入	主に新入生からの入学手続の一環として受け取る納付金
その他の収入	当年度に入金される「前年度未収入」等
資 金 支 出 の 部	
科 目	科 目 説 明
人件費支出	役員、教職員の給与、退職金及び日本私立学校振興・共済事業団、退職金団体の掛金
教育研究経費支出	教育、研究、奨学金及び教育環境の維持、学生生活の支援費用
管理経費支出	募集対策に係る広報費等教育に直接関係のない費用
借入金利息支出	借入金に伴う利息
借入金等返済支出	借入金元本の返済
施設関係支出	土地、建物、構築物等固定資産取得のための支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の固定資産取得のための費用
資産運用支出	特定事業目的のための費用
その他の支出	前期末の未払金支払等の費用

イ) 事業活動収支計算書(旧消費収支計算書)

学校法人会計基準の一部改正により今までの消費収支計算書は事業活動収支計算書と大きく変わることになり、平成 27 年度の予算書より適用することになった。

事業活動収支計算書は、当該会計年度の経営成果の内容及び均衡の状態を明らかにするものである。事業活動収支計算書は、大きく分けて二つの計算を行う。一つは教育活

動収支の部及び教育活動外収支の部、もう一つは特別収支の部、この 2 分野の収支合計で 1 年間の経営の成果である当年度収支差額を表し、翌年度繰越収支差額では過去の成果と合わせ表す。その中で教育活動収支差額は、法人の主たる経営活動の成果を表すため、プラスであることが望ましい。計算的技術は企業会計の損益計算書に似ているが、本質的な違いを示すのが基本金組入れの概念である。

事業活動収入の部		
科目	科目説明	区分
寄付金 施設設備寄付金	金銭以外の現物寄付も計上する。	教育活動収支及び 特別収支
資産売却差額	学校法人の所有する資産の帳簿価格以上で売却した時の差額分を計上する。	特別収支
事業活動支出の部		
科目	科目説明	区分
人件費（退職金引当金繰入額含む）	資金収支計算書の人件費支出は退職金支出が含まれているが、事業活動 支出は退職金引当金繰入額を計上する。退職金総額の 100%を計上することになっているが、私立大学退職金財団の交付金及び掛金の差額において調整する場合がある。	教育活動収支
教育研究経費（減価償却額）	科目の内容は資金収支計算書と同じだが、事業活動支出には減価償却額が計上されている。時間の経過により価値が減少する固定資産について使用期間に応じて毎年費用化する。	教育活動収支
管理経費（減価償却額）	上記と同じ。	教育活動収支
資産処分差額	学校法人の所有する資産の帳簿価格以下で売却した時の差額分を計上する。	特別収支

基本金組入前当年度収支差額	基本金組入前の事業活動収入と事業活動支出の純粋な差額で、単年度における収支のバランスを確認することができる。
基本金組入額合計	学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして事業活動収支差額から組み入れたもので、施設設備関係資産を自己資金で賄った相当額を組み入れる。また、奨学基金、運転資金相当額等で構成されている。
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した額で、プラスであれば基本金組入額（資本的支出）と経費支出が事業活動収入で賄われたことになる。この差額と前年度繰越収支差額の累計が翌年度繰越収支差額となる。

② 貸借対照表の概要

貸借対照表は、一定時点（年度末）の財政状態を表すものであり、学校法人においては、固定資産を保持することの重要性から固定性配列法を採用し、資産については取得原価主義を原則とし、減価償却の方法は定額法によるものとしている。また、必要な資産を継続的に維持するものとして、基本金を基本金組入前当年度収支差額より組み入れ、貸方に表示しているところに特徴がある。

科目	科目説明
資 産 の 部	
固定資産	土地、建物、図書等の有形固定資産と特定目的の積立金である特定資産や有価証券をいい、流動資産とのすみ分けでは1年を超えて使用される資産
流動資産	現金・預金等の1年以内に使用される資産
負 債 の 部	
固定負債	支払期限が1年を超えて到来する長期借入金や退職引当金、長期未払金等の負債
流動負債	支払期限又は精算が1年以内に到来する短期借入金や未払金、前受金等の負債
純 資 産 の 部	
第1号基本金	学校法人の設立当初に取得した教育の用に供される固定資産の価格又は新たな学校の設置若しくは既設の学校の規模の拡大若しくは教育環境の充実向上のために取得した固定資産の価格
第2号基本金	新たな学校の設置や既設の学校の規模の拡大若しくは教育環境の充実向上のために将来取得する固定資産に充てる金銭やその他の資産の額
第3号基本金	基金として継続的に保持し、かつ運用する金銭やその他の資産の額
第4号基本金	学校法人の運営のため恒常的に保持すべき資金の額
繰越収支差額	過年度からの事業活動収支計算書の結果、累積された当年度収支差額の収入又は支出の額

(2) 財務状況の推移（経年比較）

令和5年度における法人の資金収支・事業活動収支計算書(旧消費収支計算書)及び貸借対照表の概要は次の表のとおりである。過去4年間に遡り経年で比較ができるよう推移表となっている。

① 収支計算書

ア) 資金収支計算書

令和5年度の資金収支計算書は、資金収入の合計が前年度繰越金17億4千2百万円を含め47億6千万円（前年度比1億3千万円、2.7%の増）となり、資金支出の合計が29億1千万円（前年度比1千9百万円、0.6%の増）で、翌年度繰越支払資金が前年度と比較すると約1億1千万円の増となった。

(単位：千円)

収入の部	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
学生生徒納付金収入	2,057,562	2,147,842	2,198,869	2,172,423	2,163,953
手数料収入	53,690	47,096	50,819	52,707	53,367
寄付金収入	23,630	330	24,461	1,919	91,347
補助金収入	533,431	597,999	599,785	652,569	617,631
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	9,621	0	7,447	6,920	15,534
受取利息・配当金収入	106	99	41	39	26
雑収入	16,545	34,859	96,402	83,509	66,043
借入金等収入	0	0	0	0	500
前受金収入	583,680	614,439	624,245	599,825	593,104
その他の収入	63,566	18,183	39,959	109,944	85,255
資金収入調整勘定	△613,676	△625,735	△717,422	△709,159	△664,559
前年度繰越支払資金	1,227,585	1,397,014	1,579,120	1,665,352	1,741,613
収入の部合計	3,955,740	4,232,126	4,503,726	4,636,048	4,763,814
支出の部	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
人件費支出	1,636,696	1,650,962	1,805,259	1,772,428	1,716,820
教育研究経費支出	461,889	544,581	570,094	551,928	678,244
管理経費支出	256,941	211,723	226,298	287,543	266,497
借入金利息支出	0	0	0	0	0
借入金返済支出	950	0	0	0	0
施設関係支出	79,880	78,380	83,728	79,555	88,408
設備関係支出	40,642	103,720	84,763	84,310	74,152
資産運用支出	0	0	0	0	50,000
その他の支出	278,670	271,196	323,133	331,048	255,380
資金支出調整勘定	△196,952	△207,556	△254,901	△212,377	△216,575
翌年度繰越支払資金	1,397,014	1,579,120	1,665,352	1,741,613	1,850,889
支出の部合計	3,955,740	4,232,126	4,503,726	4,636,048	4,763,814

イ) 事業活動収支計算書(旧消費収支計算書)

令和5年度の事業活動収支計算書は、事業活動収入の合計が30億円(前年度比3千6百万円、1.2%の増)となり、事業活動支出は合計が30億2千万円(前年度比5千5百万円、1.8%の増)で基本金組入前当年度収支差額は1千2百万円の支出超過となった。基本金を1億6千万円組み入れたことにより当年度収支差額は約1億8千万円(前年度比1千万円の増)の支出超過となった。

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		学生生徒納付金	2,057,562	2,147,842	2,198,869	2,172,423	2,163,953
		手数料	53,690	47,096	50,819	52,707	53,367
		寄付金	23,665	373	19,762	3,035	41,347
		経常費等補助金	531,622	575,191	592,660	622,652	610,176
		付属事業収入	9,621	0	7,447	6,920	15,534
		雑収入	16,675	32,333	95,621	82,784	65,205
		教育活動収入計	2,692,835	2,802,835	2,965,178	2,940,521	2,949,583
	事業活動支出の部	科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		人件費	1,646,441	1,646,234	1,791,375	1,772,676	1,728,297
		教育研究経費	765,589	839,582	874,192	856,963	980,350
		管理経費	288,721	243,797	260,964	325,972	301,904
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	2,700,751	2,729,613	2,929,531	2,955,611	3,010,550
教育活動収支差額			△7,916	73,222	35,647	△15,090	△60,968
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		受取利息・配当金	106	99	41	39	26
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	106	99	41	39	26
	事業活動支出の部	科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0		
教育活動外収支差額			106	99	41	39	26
経常収支差額			△7,810	73,321	35,688	△15,051	△60,941
特別収支	事業活動収入の部	科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		資産売却額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	1,892	27,135	18,445	31,154	58,379
		特別収入計	1,892	27,135	18,445	31,154	58,379
	事業活動支出の部	科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		資産処分差額	10,966	3	9,170	9,453	4,921
		その他の特別支出	2,037	2,748	306	128	4,283
		特別支出計	13,003	2,751	9,476	9,581	9,204
特別収支差額			△11,111	24,384	8,969	21,573	49,175

基本金組入前当年度収支差額	△18,921	97,705	44,657	6,522	△11,766
基本金組入額合計	△167,639	△264,239	△280,215	△172,441	△164,193
当年度収支差額	△186,560	△166,534	△235,558	△165,919	△175,960
前年度繰越収支差額	△7,843,733	△8,030,293	△8,196,827	△8,432,385	△8,598,304
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△8,030,293	△8,196,827	△8,432,385	△8,598,304	△8,774,263

② 貸借対照表

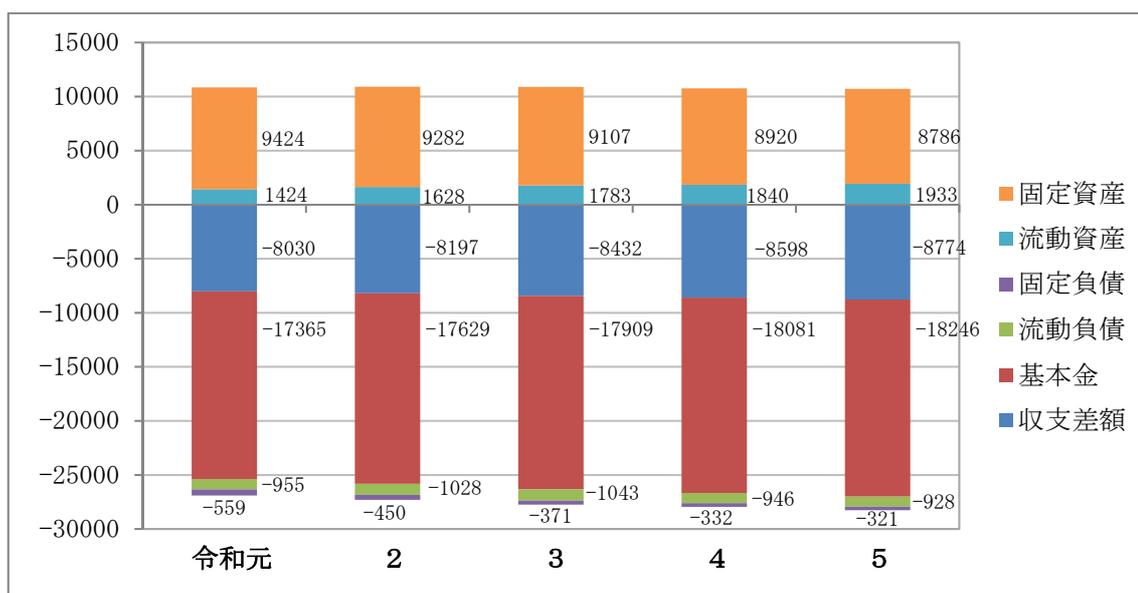
令和5年度の貸借対照表は、資産総額が107億2千万円となった。前年度と比較すると4千1百万円減少している。一方前受金を省いた負債総額は、6億5千万円で、前年度より2千4百万円減少している。退職金財団に対する掛金不足が8千3百万円ある。

(単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	9,424,428	9,282,071	9,107,865	8,920,513	8,786,810
流動資産	1,423,730	1,628,382	1,782,652	1,840,828	1,933,198
資産の部合計	10,848,158	10,910,453	10,890,517	10,761,341	10,720,008
固定負債	558,605	450,086	371,080	332,210	320,988
流動負債	955,160	1,028,269	1,042,681	945,853	927,508
負債の部合計	1,513,765	1,478,355	1,413,761	1,278,063	1,248,496
基本金	17,364,686	17,628,925	17,909,141	18,081,582	18,245,775
繰越収支差額	△8,030,293	△8,196,827	△8,432,385	△8,598,304	△8,774,263
純資産の部合計	9,334,393	9,432,098	9,476,756	9,483,278	9,471,512
負債及び純資産の部合計	10,848,158	10,910,453	10,890,517	10,761,341	10,720,008

貸借対照表の推移

(単位：百万円)



(3) 主な財務比率

(単位：%)

比率	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△0.3	2.6	1.2	△0.5	△2.1
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	76.4	76.6	74.2	73.8	73.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	61.1	58.7	60.5	60.3	58.6
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	28.4	29.9	29.5	29.1	33.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	10.7	8.7	8.8	11.1	10.2
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	149.1	158.3	171.0	194.6	208.4
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産※}}$	16.2	15.7	14.9	13.5	13.2
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	86.0	86.5	87.0	88.1	88.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.8	98.3	99.1	99.5	99.6

※純資産＝基本金＋繰越収支差額

(4) 借入金の状況

(単位：千円)

借入先	借入残高	利率	償還期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	0			
財団法人東京都私学財団	500	無利息	令和9年3月	無し
合計	500			

※高等学校入学支度金